



開物成務

令和6年4月25日(木)発行

校長 津田 千由美

スタートライン

先日、社会科・総合的な学習の時間に3年生と開成町めぐりをしました。あじさい農道で、頭が赤、喉が濃紺、腹が緑の美しい鳥に遭遇しました。



春の季語でもある「キジ」の雄です。

開成町のすてきな春を発見しました。

さて、新学期が始まり、新たな取り組みが始まりました

朝会～先生紹介～

4月23日(火)、今年度2回目の全校朝会が行われました。今回は「開成小学校の先生たちを知ろう」というのがねらいです。年度の終わりころになっても、

「あの先生、だれだっけ？」

「学級の先生や授業を受け持つ先生以外の先生を知らない」

という子どもたちの声を聴いたことがきっかけで、今回の朝会が企画されました。

多くの先生たちが、「おすすめの本」を携えて、ステージの前に並びました。

「この本を読むと気持ちがスカッとします」

「この本の作者は、私の担任の先生でした」

一人一言ずつの自己紹介の言葉にも、個性が溢れており、子どもたちが興味をもって聴いていました。

開成小学校には、教員以外にも支援員さん、介助員さん、カウンセラーさんなど、子どもたちの応援団が数多くいます。まずは身近な大人や学級の仲間の顔と名前を知るところからスタートしています。

また、4月23日から5月12日までは「子ども読書の日」です。先生たちの「おすすめの本」がきっかけとなり、読書の幅が広がることも期待しています。



全校学級会

今年度から「全校学級会」の取組が始まりました。「学校生活を自分たちで創る」という自律の力を育むことが、主な目的です。4月22日(月)の朝モジュールの時間に、担当教員が作成したスライドを活用して、その目的や方法について全校の子どもたちが共有しました。

「いいか・悪いかを先生が判断するのではなく、みんなのことはみんなで決めていこう」「おかしいな、なんとかしたいと思ったことは、声に出していいんだよ。みんなで解決していこう」

という教師の言葉にうなずいている子どもたちが多くいました。

この説明の後、さっそく学級会を開いて学級目標をきめたり、学校のルールについて話し合ったりしていました。自分たちの学校づくりのスタートラインに立っています。

開成小のすてきさんが『つくる・そだてる』じまんの学校
みんなのことを
みんなできめていこう

懇談会・PTA顔合わせ会

4月19日(金)、今年度初めての懇談会が開かれました。週末のお忙しい中でしたが、大勢の保護者の皆様にご参加いただきましてありがとうございます。学級という小さな枠に留まることなく、学年がチームとなり、複数の目で子どもたちの指導・支援にあたりたいという願いから、今回は1～6年生全ての学年で「学年懇談会」を実施しました。

また、その後はPTA新役員と教職員による顔合わせ会を行い、PTA会長からは

「できることを無理なくやってみましょう」という力強い言葉が示されました。

今週月曜日には、PTA役員さんたちによる通学路パトロールが行われました。昨年度同様、年間を通して10日と20日に登下校の見守りを実施する予定です。また、今週末には書面によるPTA総会が行われます。

「子どもたちの笑顔のために」を合言葉に、今年度のPTA活動がスタートしました。

高学年教科担任制の導入

今年度から、本校では高学年教科担任制を導入しました。この制度は、小学校段階での全国的な取組です。初めての導入となりますので、保護者の皆様にも概要をご紹介します。

《導入の主なねらい》

◆児童の学習意欲・基礎基本の定着

教員の専門性を生かし教材研究を丁寧に行うことで、児童の授業に対する興味関心を高め、基礎基本の定着を図ります

◆児童指導の充実

学年間交流授業及び教科担任によるチーム担任制の視点をもった学年学級経営を推進し、複数教員によって多面的に児童理解を図ります

◆中学校へのなめらかな接続

中学校での全教科担任制のシステムに慣れ、進学への不安感を軽減します

《今年度の取組》	学年間交流授業	高学年専科	非常勤専科	外国語専科(兼務)
5年生	家庭&書写・ 体育・社会	理科(5-6年)	音楽	外国語
6年生	家庭&書写・ 体育・社会	算数(4-1)		

*本校4年生も学年間交流授業に取り組みます

わたしのひとりごと

もうすぐ学校というところで、お母さんからなかなか離れられずに泣いている一年生と出会いました。学校で何か不安なことがあったのかもしれない。友達とけんかをしてしまったのかもしれない。学校に行きたくない理由もそれぞれです。集団の中で生活している以上、不安や心配をゼロにすることは不可能です。

そのお母さんがすてきだったことは、泣いているその子をギュッと抱きしめてあげたことです。しばらく抱きしめた後に、「もう大丈夫だから行ってらっしゃい」と声をかけました。その子は安心したのか、自分で学校へ向かって歩き始めました。外の世界が変わらなくても、「安心」という居場所を獲得した子どもは、こうして自分の足で歩くことができるでしょう。ただ、この充電時間も人それぞれです。

これはある大学教授の言葉です。

乳児はしっかり肌を離すな。

幼児は肌を離せ、手を離すな。

少年は手を離せ、目を離すな。

青年は目を離せ、心を離すな。

どの学年の子どもたちも4月はやる気いっぱい입니다。自立しようとしています。その姿を「目を離さないように」しっかりと見守ってあげてください。

時々不安になることもあるでしょう。その時にはぜひひとつ前の段階に戻り、しっかりと手を握り直し、時にはギュッと抱きしめてあげてください。そうすれば、いつかまた自ら手を離すときがくるでしょう。子育ては、行きつ戻りつの繰り返しです。

週末からのGW、楽しい時間を共有できますように。

